Map 7 雨　量

奄美群島は、年間を通じて降水量が多く、年間降水量が 3,000mm を超える地域もある日本有数の多雨地帯です。黒潮の影響で海水温が高いため、上昇気流が発生して雨雲ができやすく、5 月中旬から 6 月下旬頃にかけての梅雨、夏のにわか雨、夏から秋にかけて多く接近する台風、冬の季節風（モンスーン、p5-6 参照）が東シナ海の湿った空気を運んで降る時雨などと、一年を通じてたくさんの雨が降ります。

奄美群島の中でも、「山地の島」（p.7 参照）である奄美大島や徳之島などは、山にぶつかる風による上昇気流で雨雲ができやすいため雨量が多く、「台地の島」である喜界島、沖永良部島、与論島は少ないといった違いがあります。特に、奄美大島の湯湾岳（標高 694m）や徳之島の井之川岳（標高 645m）の海抜 500~600m 以上の森林は、一年を通じて雲や霧がかかりやすく、日射量が限られた空中湿度の高い「雲霧帯」と呼ばれる環境になっています。

なお、同じ亜熱帯海洋性気候の沖縄島は、梅雨が少し短く、年間降水量 2,000mm 程と奄美群島に比べて雨量は少なくなっています。また、奄美群島と同様に世界自然遺産に登録されている小笠原諸島は、同じ亜熱帯地域に属していますが、梅雨がないため、年間降水量 1,300mm 程度です。

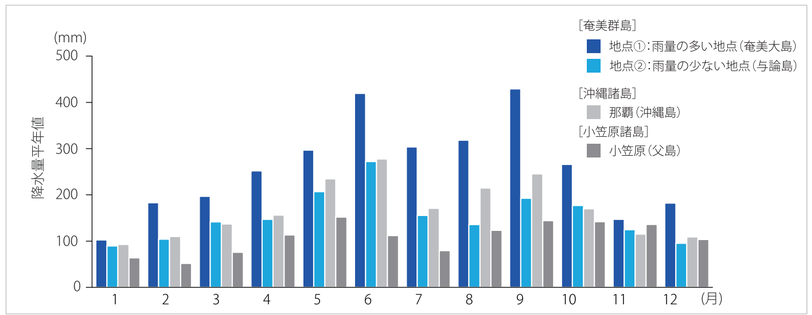
マップ 7 も、気象庁が 10 年ごとに発表する「メッシュ平年値 2020」から作成しています。

奄美群島の雨が多い時期

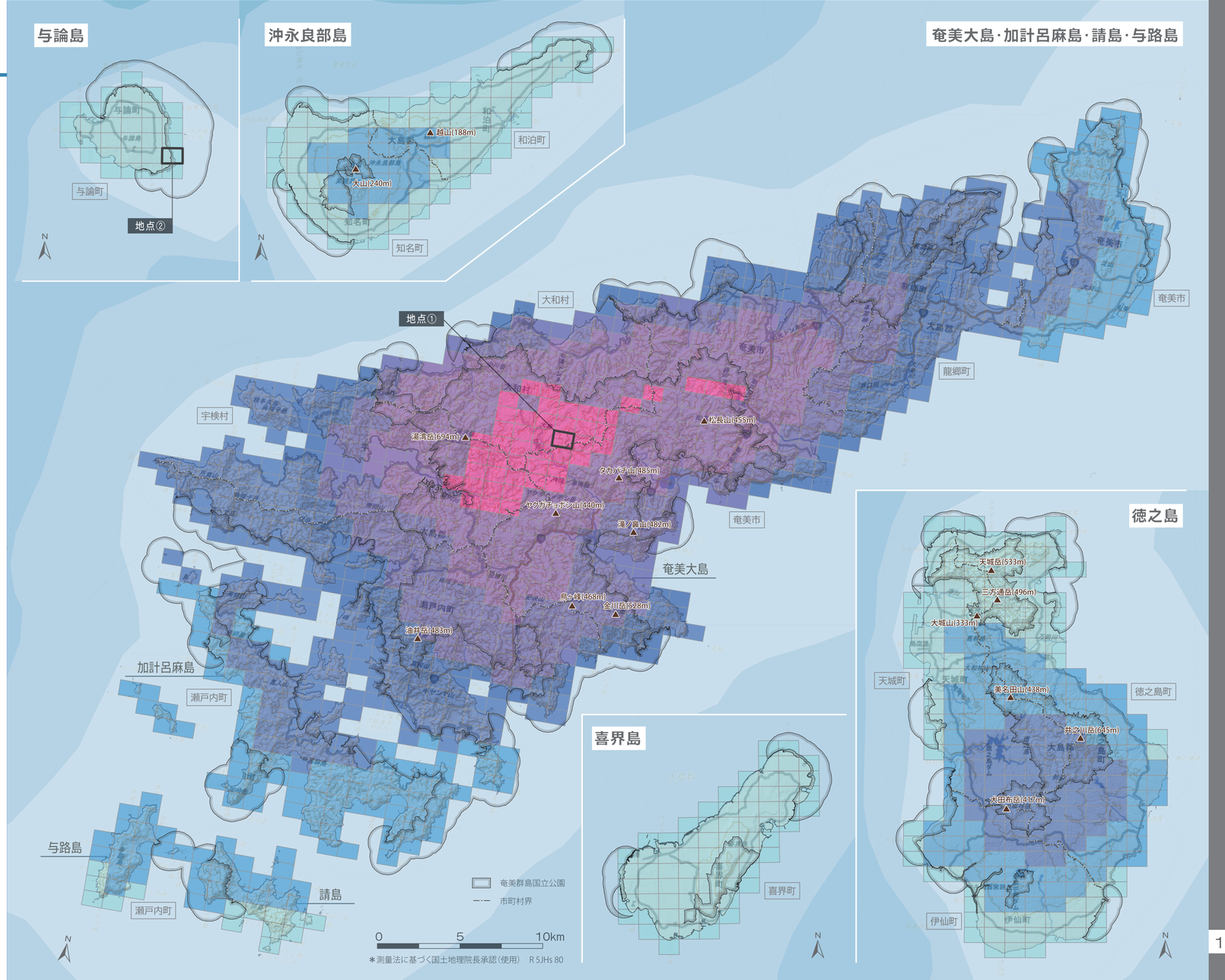
梅雨	5 ～ 6 月、冷たい北風と暖かく湿った南風がぶつかり、梅雨前線ができ雨が降る
夏	南からの暖かい風の影響で台風が発生し、降雨が多くなる（7 ～ 10 月） 夏場の強い日射量の影響で積乱雲が発生し、局所的に激しい雨が降るが、 台風が少ない場合は干ばつに陥りやすい
冬	12 月～ 2 月は大陸（北）から冷たい風が流れ込み、東シナ海で湿った空気とぶつかって 対流雲が次々に発生するため、断続的に雨や曇りの天候が多くなる

※雨が多いため、年間日照時間の平年値は、1,332 時間程度（奄美市名瀬観測所）と、全国平均の2,000時間と比べて、大幅に少なくなっています。

月別降水量平年値（メッシュ平年値 2020）



凡　例

2,000mm 以下　2,200 - 2,400mm　2,600 - 2,800mm　3,000mm 以上
2,000 - 2,200mm　2,400 - 2,600mm　2,800 - 3,000mm

［出典］・降水量平年値　「国土数値情報（平年値メッシュデータ）」（国土交通省）を加工して作成
（https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-G02-v3_0.html）
・市町村界　「国土数値情報（行政区域データ）」（国土交通省）
（https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-N03-v3_1.html#prefecture46）
・陰影　基盤地図情報数値標高モデル　10mメッシュ（標高）より作成
・背景図　地理院タイル（淡色地図）